

かみねっちょ新聞

令和2年 6月号

～あなたの知らない飼育員の世界～

『一頭、一頭、違います！』

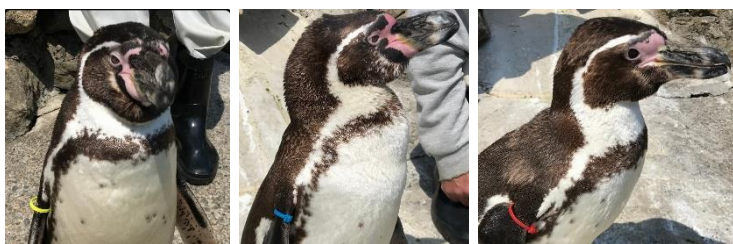
動物園では同じ動物種を複数飼育していることが多いです。私たち人間も一人一人名前があり、顔や体が違うように、同じ種でも一頭、一頭個性があり違っていています。飼育員はその一頭一頭を見分ける「個体識別」を行っており、今回はその「個体識別」について紹介していこうと思います。

なぜ見分ける必要があるの？

毎日の飼育日誌に記録をするときや、病気やケガをしたときに、どの個体かわからないと困ってしまいます。なので、飼育員は同じ種類の動物であっても「この個体はこの子！」と見分けなければいけません。

ペンギン 判別レベル★★★★★

ペンギンはフリッパー（羽）につけているタグの色で個体識別します。飼育員はお腹の斑点で見分けていたりします。



黄：クッキー 青：アッキー 赤：アーちゃん

フラミンゴは名前がないかわりに一羽ずつ番号があります。

ヒグマ 判別レベル★★★★★

頭と顔が金色っぽい アイ
顔・体全体が黒っぽい エリコ



フラミンゴ 判別レベル★★★★★

フラミンゴは足環という環っかに記入されたナンバーで個体の判別を行います。



顔や体の違いで見分けるのが難しい動物でも、一頭一頭見分けるための工夫がたくさんあります。来園した際にはぜひ、個体の違いやそれぞれの名前をおぼえていってください！！

飼育員・山下

園長のひとごと

※1 人気（ひとけ）のない園内を回っていると、放し飼いのリスザルの島で一番若いオスが、飛んでいる何かをヒョイと捕まえた。そいつを口に持っていこうとすると、やにわにポイ。テントウムシだ。どうやら臭かったらしい。保安担当者に聞くと、以前も飛んでいるカメムシを捕まえたものの臭くて食べなかったとか。リスザルは雑食性だが、特に昆虫類は大のお気に入り。雑食性の我々もサラダより焼肉のほうが好きなのだ。それにしても驚くのは彼らの動体視力。飛んでりゃ何でも捕まえる。飛行中のトンボなんかもポイツと掴んでムシャムシャ。可愛らしい顔とのギャップがすさまじい。動くものをつい捕まえちゃうのは彼らの習性なのだろう。

習性といえばダム作りの名人ビーバー。当園でもせっせと枝木を運んで巣作りに精を出す。※2 スウェーデンの動物学者の実験では、ビーバーに川のせせらぎ音をスピーカーから聞かせると、水もないのに猛然と音源に小枝を積み始めたそう。要は音に反応しているということか。仕舞には電気カミソリのブーンという音でも反応。自分たちの巣作りのためとはいえ、悲しいかな動物の習性。人間社会もいまや新型コロナで巣ごもりの日々が続くが、我が巣の外には小枝ならぬビールの空き缶が積まれていく。これも悲しいかな、我が習性だが、ウィルスが細胞に取り付く習性だけは勘弁して欲しい。

※1 入稿時は休園及び自粛中

※2 参考「動物のひみつ」ルーシー・クック著

「かみね美容室」さく・なめかめ



長毛種のモルモットは、毛先を引くくらいひたす時はカットすることも。夏場は暑さ対策にもなります!

7月の予定

新型コロナウイルス感染対策のため、7月のイベントは見合わせます。ご理解・ご了承のほどよろしくお願い致します。

詳細は、かみね動物園ホームページ <http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/>

または 0294(22)5586 までお問い合わせください。



特別エッセイ！！

* 動物の搬出について *

一般的に動物の移動は、【輸送箱】という動物専門の箱を用いて行います。輸送箱は、動物に合わせて作られているので、小型動物用・肉食動物用・草食動物用など様々な形や大きさがあります。また、輸送業者によっても、形や大きさが違います。

今回は【キリンの搬出】を5月15日に行いましたので、キリンを例に説明します。搬出個体のキリンのルリカは、1歳11か月でまだ子供のキリンですが、体長340cm・体重510kgありとても大きい動物です。搬出には、様々な準備が必要です。簡単ですが【手順】を説明すると

- ①搬出日を決める
- ②輸送業者と輸送箱の確認
- ③搬出スケジュールの作成
- ④輸送箱の搬入
- ⑤輸送箱に入る練習(馴致)などがあります。

キリンは、麻酔をかけて移動できない動物です(麻酔時頭を打ってしまうリスクが高いなど)。最も重要で安全に関わってくるのは、⑤番の工程です。今回はルリカが好奇心旺盛な性格で、早い段階に輸送箱へ入ってくれたので、一安心しました。

搬出は、動物種や個体の性格によって作業が大きく変わってくる【飼育業務の一つ】です。

